

「霊における会話」を体験して 役員交流会参加者アンケート

● 回答数 (20)

霊における会話 体験数

- ・初めて (13)
- ・2回 (1)
- ・3回以上 (3)
- ・回答なし (3)

霊における会話を体験した感想

- ・まずテーマについて考え、祈り、自分の考えをまとめるという一連の流れの中で、心の奥から大きなものが湧いてくるような体験ができ、とても貴重だと感じた。
- ・発言の仕方に戸惑いはあったが、短時間での対話を通してこれでよいのだと理解できた。
- ・分かち合いの中で聖霊が働いてくださり、人の話を聴くうちに自分の意見や思い込みが変化していくことに気づいた。
- ・発言を聞いた後の黙想の時間に、聖霊の働きを感じ取ることが難しかった。
- ・相手を否定せず祈りの中で話を聞く方法は議論にならずよいが、時間内に発言するのは難しい。
- ・信徒同士が洗礼によってつながっていると再確認した。ミサへの参加が減っている現状の中で、顔を合わせて祈り語り合うことの大切さを強く感じた。
- ・他の人の奉仕の姿勢が分かり、教会とのつながりを再認識できた。
- ・黙想＝祈りであり、沈黙の内に聖霊の導きを感じることで、分かち合いがスムーズに進んだ。
- ・多くの学びがあり素晴らしい体験だった。

「霊における会話」の良いところ

- ・一つのテーマについて静かに考え、聖霊の働きを求めながらまとめ、他の考えを素直に受け入れることで視野が広がる。
- ・自分の考えや思い込みが変化する。
- ・体験を分かち合い、共通理解が得られる。
- ・相手の話を遮らず聞く姿勢が保てる。
- ・発言が長くなりにくい。
- ・自分の考えに頼らず「神様はどう導くか」を委ねられる。
- ・聖霊に聞きつつ意見をまとめることで一致へ向かう。
- ・回答を求められないことが安心につながる。
- ・聴いてもらえる喜び、否定されない安心感がある。
- ・沈黙の中で話を聞き、思いを深められる。
- ・自分では気づかなかった自分を発見できる。
- ・他者の発言を静かに噛みしめる時間がある。
- ・祈りの中で落ち着いて意見をまとめられる。
- ・洗礼によるつながりを感じられる。
- ・キリストを中心に心を開いて語り合える。

- ・沈黙、分かち合い、傾聴によって共同体としてのつながりが深まる。
- ・人の話をよく聞くことの大切さを学べる。

「霊における会話」の難しいところ

- ・沈黙の時間や2～3分でまとめる発表が難しい。
- ・立場や環境の違いから素直に聞けない時がある。
- ・慣れないと自分の考えばかりに偏ってしまう。
- ・「霊に聞く」ことの感覚がつかみにくい。
- ・発言時間の公平さに気を配るのが難しい。
- ・自分の思いを言葉にすることが難しい。
- ・聖霊の導きと自分の思いの区別がつきにくい。
- ・本音で話す難しさがある。
- ・他の人の話を否定せず聞くことが簡単ではない。
- ・小教区評議会での実践が課題。
- ・内容は理解できるが、伝えることが難しい。

「霊における会話」の現場での実践

- ・年齢層や信徒歴でグループを分け、身近なテーマを扱うと参加しやすい。
- ・聖書の言葉をテーマにして分かち合い、評議会でも霊における会話を取り入れる。
- ・5～6人の小グループで進行役を交代しながら、時間制限を設け、ポストイットを多めに配るなど工夫する。
- ・黙想会や悩みを抱える人の話を聴く場に導入する。
- ・祈りの力を信じ、祈りから始める。
- ・評議員が長期・短期計画を考える際に活用する。
- ・音楽や映像を使った導入、無記名の感想など表現の幅を広げる。
- ・教会の大きな決断時に取り入れる。
- ・時間をかけて深いテーマに取り組む黙想会に適している。
- ・自由参加のお茶会を続け、さまざまな意見を聞き出す。
- ・神父様と相談しながら進める。
- ・シノドス的理解を深めるために繰り返し説明する。
- ・ブラジル共同体での実践経験を生かし、小教区評議会でも実践を目指す。

今回の交流会全体について

- ・初めて役員になり戸惑いがあったが、他教会の取り組みを聞き、教会をより良い場にしたと思った。
- ・司教様・神父様も分かち合いに参加され、言葉をいただけたことがありがたかった。
- ・システムとしてとても良い研修方法だと思う。
- ・時間があれば教会内を見学したかった。

- ・司牧者の参加が少なかった。
- ・遠方参加は負担が大きい。
- ・分かち合いは難しいと感じた。
- ・動画や資料の共有により、欠席者にも内容が伝わって良かった。
- ・他の小教区との交流は有意義だった。
- ・円形で座る方がお互いに顔を見られてよい。
- ・久しぶりの知人との再会もあり、聖霊の導きを感じた。
- ・他教会の苦労や喜びを聞き、共感と勇気を得た。
- ・初参加で雰囲気分らず不安だったが、有意義な体験だった。

開催時間

- ・ちょうどよい（13）
- ・長い（3）＊理由：3時間が限度、昼食持参が負担、昼食不要の方がよい
- ・短い（2）＊理由：シノドス流の説明がもっと必要

次回への希望

- ・信仰や行動が問われる大きなテーマの中で、さまざまな意見を伺いたい。
- ・社会に対する福音的活動について気軽に話したい。
- ・社会奉仕活動について他教会の事例を聞きたい。
- ・信者が少なくなっている現状の中で、社会に開かれた教会づくりのヒントがほしい。
- ・オンラインではなく今回のような対面の集まりが望ましい。

その他なんでも

- ・皆が素直に意見を述べていた。
- ・他の人の考えをゆっくり聞くことができた。
- ・参加したことでグループの皆を霊的家族のように感じ、参加してよかったと思えた。
- ・時間が決まっておリ質問をしないため進行が早く、神父様の言葉が印象に残った。
- ・経験を重ねればもっと上手くできそう。
- ・「自分を空っぽにして聞く」のは難しい。
- ・これも霊の体験になるのかと感じた。
- ・霊における会話に到達できたかは分からないが、メモを取る行為に聖霊の働きを感じた。
- ・雑談も良い交流となり、緊張せずに話せた。
- ・それぞれ違っても、皆が神に向かって祈り、愛されていると感じられる時間だった。
- ・抽象的なテーマを言語化するのは非常に難しい。
- ・発言が小教区の課題や心配に傾いて、聖霊との交わりの体験の話があまりなかった。
- ・どの小教区も同じ問題（高齢化、若者減少、外国人信徒増加）を抱えている。